

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200818		
法人名	社会福祉法人恵愛会		
事業所名	グループホームめぐみ	ユニット名	1階
所在地	都城市太郎坊町563-2		
自己評価作成日	平成24年7月26日	評価結果市町村受理日	平成24年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570200818&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気、毎日元気に楽しく生活しています。毎日の散歩、体操のほか、月の行事(ダンベル体操、歌唱教室、書道教室)も充実しています。月1回は外出を企画し、季節の花々やおいしい物などを食べに行ったりと盛りだくさんです。また、併設の特養ホームやデイサービスなどもあり、他施設との交流も盛んに行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念は、全職員で毎年検討し、ホームの現状や状況の変化を基に作られている。「逆デイサービス」と名付け、地域でデイサービスを行い、地域の人達と談笑する取組やボランティアの協力で、利用者家族から習字を習ったり、ジュニアボランティアを交えて歌唱教室を開催し、世代間交流を図るなど、広く地域との交流が行われている。「家族の意見アンケート」を毎年実施し、意見や要望を把握し、運営に生かしている。外出支援については、「苑外活動」「個別外出」等の集団や個別対応の企画で取り組み、季節の花見や物づくりを行いながら、なじみのものに触れ合う機会を工夫するなど、全職員の日ごろからの懸命な活動が利用者の生活に生かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日唱和を行い、理念に基づいた介護に取り組んでいる。		ホーム独自の理念は、各ユニットごとに毎年見直し、作成されたもので、「清潔感ある環境づくり」の具体的な行動として、居室のポータブルトイレにさりげなくカバーを掛けるなど、理念に基づく介護が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な行事(ダンベル体操、書道教室、歌唱教室)のほか、地域の夏祭りなどにも参加し、交流を図っている。		ボランティアを積極的に受け入れ、世代間交流や「逆デイサービス」と称して、地域の民家を利用して、地域の人達と交流を行い、地域の中で安心して暮らして行くための工夫に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時や地域での集会などの際に、認知症についての勉強会などを開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、活発な意見交換が行えており、出された意見は、職員会議等を通して話し合い、サービスの向上に活かしている。		ボランティアの有効活用や地域の人達へ認知症に関する勉強会実施の提案が出されるなど、ホームの質の向上につながる有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの質の向上に向けた相談や助言をその都度行っている。		グループホーム連絡協議会の会議に、市当局にも参加してもらい、そこでグループホームの現状やかかえている問題等を相談し、情報を得ている。ホーム個別の希望や相談は、担当者と随時行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、身体拘束は行っていない。定期的な勉強会を行い、身体拘束の及ぼす弊害について理解を深めている。		管理者および全職員が、身体拘束の弊害を認識し、定期的な勉強会を行っている。利用者の言葉をさえぎったり、押さえつけるような言葉かけなど、無意識に行う行為には、特に配慮するように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い、虐待防止に努めている。また、入居者の状態について、常に注意を払っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者の中での利用はないが、勉強会などに参加し、制度の活用に取り組んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに声を掛け、気軽に意見を言える雰囲気作りに努めている。		運営推進会議に家族代表が参加し、出された要望等の記録は開示され、閲覧できるようになっている。「家族の意見・要望アンケート」を実施しているが、その結果を分析して、公表するまでには至ってないため、公表に向け努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議のほか、毎日の処遇会を通して職員の意見を聞き、反映させている。		職員会議や毎日の処遇会、ミーティング、申し送り等で、反省点や業務改善について、検討が行われている。職員の意見等が出しやすい雰囲気づくりの懇談会などの工夫もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り、職場環境の改善に努めている。また、職員のモチベーション維持の為に取り組みも行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修のほか、可能な限り外部への研修にも参加する機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し、定期的な集まりに参加し、意見交換を図っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人及び家族から十分話を聞き信頼関係を気付いた上で、安心して入居できるように配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に十分に話し合いを行い、信頼関係を築けるよう配慮している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中でニーズを見極め、必要としているサービス提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、職員と入居者さんとが一緒に取り組む姿勢を大事にしている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊など、いつでもできる環境を作って、家族とのつながりを大切にしている。また、苑外活動や行事の時等、家族へも積極的に声を掛け、参加を促している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所当初は、面会や外出などが見られるが、入居期間が長くなるにつれ、希薄になってきている。		あくまきづくり、六月灯、若いころの写真を挿入したスライドショーの鑑賞などを行い、記憶を呼び起こしながら会話を進め、人や場との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係把握には、十分な配慮を行っている(食事の席など)。また、入居者同士の時間は、特に大切にしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遊びに来られる入居者の方がおり、必要に応じて相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、本人本位のケアに取り組んでいる。常に本人の意思を尊重し、本人の立場に立った考え方をを行うように努めている。		日ごろからのコミュニケーションを大切にし、困難な場合は、本人の顔色や態度から状態の変化を察し、把握している。スタッフ単独での把握が困難な場合は、お互いの情報交換を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集のほか、入所後も家族から情報を集め、日々のサービス向上に活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の処遇会で、一人ひとりの状態を確認しており、申し送りノートを作成し、全職員への周知を図り、入居者の現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回の担当者会議のほか、状態の変化や要望のあった際は、その都度見直しを行っている。		アセスメント、モニタリングに基づいた利用者主体の目標を立て、家族も参加したカンファレンスなどで、意見や要望を出し合って、介護計画は作成されており、随時および3か月ごとに計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、一人ひとりの記録を記入し、職員間での情報の共有に努めている。また、日々プランに対しての評価も行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の状態に即して、可能な限り柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、入居者個々に応じた地域資源の活用に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居者、家族の意向で決定してもらっている。また、他医療機関についても、受診できる体制となっている。		利用者のかかりつけ医は、ホームの協力医を優先させず、希望に沿ったかかりつけ医となっている。急性期の対応は、関係医療機関や家族と連携を取りながら、対応する取組を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医・訪問看護事業所の看護師と、密に連絡、相談を行い、連携がとれている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とご家族の橋渡しを行い、家族に代わって医療機関と連絡を取り、早期の退院に向けて連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族へ状態を報告し、今後の対応については十分に話し合い、対応についても理解を得ている。		終末期のケアについては、症状緩和はもとより、家族のケアも重要な要素であるため、家族とのコミュニケーションを大切に、ホームで作成している指針に基づき取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い、実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練のほか、地域の方々と合同の訓練も年1回行い、災害対策に努めている。		水害避難訓練は、消防団、地区住民の協力の下、実施されているが、火災については法人全体の訓練に参加するのみで、建物の1階、2階にホームがあることを重視した、ホーム独自の訓練はできていない。	1階と2階に分かれているユニットであることを重視し、ホーム単独の避難訓練や地区住民の協力を得た訓練を重ねていく自助努力にも期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という敬意を忘れず、利用者個々の言葉かけ等に十分に注意しながら、プライバシーの保護に努めている。		親しみやなれ合いが増すと、言葉使いの配慮に欠けることを意識し、日ごろから職員間で注意しあうように心掛け、尊厳を保っている。動作や会話の中にも、プライバシーを損なわない対応に徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々の思いを尊重し、能力に応じた支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位に考え、個々のペースに応じた支援が出来るように努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた身だしなみ、おしゃれの支援に努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、週1回の昼食作りだけであるが、片づけや配膳などは、入居者と一緒に行っている。		毎日の朝食と、週1回の「食事作りの日」を設け、昼食はホームの台所で料理されているが、その他は法人の厨房で調理されている。食事介助の職員以外は、同じテーブルについて、食事をする現状ではない。	利用者と職員が、同じテーブルで楽しく食事をしながら、話題が共有できるような取組にも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量、水分摂取量を記入し、把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の個々の排泄パターンを把握し、日中は、極力トイレでの排泄に努めている。		排せつチェック表や本人の意思表示、サインなどを見逃さず、早目の声かけ・トイレ誘導を行い、パットを減らしていく工夫や布パンツへの移行に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や腹部のマッサージなどにて、便秘予防に努めているが、下剤に頼るケースが多いのが現状である。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日、時間帯は決まっているが、希望時は可能なかぎり応じている。		入浴は、午前と午後に分けたり、同性介助希望者には対応して、利用者の希望に沿った支援を行っている。また、入浴剤を使用したり、ゆず湯に入り、季節感を味わえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の状態に応じて、柔軟に対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の一覧表を作成しているが、全職員が理解しているとは言えない状態である。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割を持ってもらい、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回ほど個別外出を企画し、本人の行きたいところに行ける機会を設けている。		春の花見、夏のソーメン流しなど、季節を楽しむ集団での外出や個人の希望に沿った「個別外出」を行っている。「逆デイサービス」で地域に溶け込んだり、毎日の散歩は五感で感じられるよう、楽しみながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、困難な入居者がほとんどであるが、外出時などには、本人にお金を払って頂ける機会を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられる状態であり、希望時以外でも職員から声掛けし、関係作りに努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに配慮し、季節感のある装飾品などをさりげなく取り入れている。		自分が今どこにいるのか、どこに行きたいかの見当をつきやすくするため、壁や廊下、居室の入り口に、写真や習字が掲示されている。使い慣れた言葉、「便所」などが大文字で書かれ、利用者の状態に合わせた共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳部屋、テーブルを設置し、利用者の方々が自由に過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自由に使用してもらっている。入居者それぞれの馴染みの物や使いなれた物などを持ってきてもらっている。		各居室は、個人を尊重した部屋づくりとなっており、ポータブルトイレにはさりげなくカバーが掛けられ、理念でもある「清潔感のある環境づくり」が生かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂、居室に目印を設置し、出来る限り自立して、生活できるよう工夫している。			